

服装によって生起する多面的感情状態の測定

(第7報) 服装の種類および場面によって生起する感情の違い

尚絅短大

○多久慶子

鳴門教育大

藤原康晴

奈良女大生活環境

中川早苗

梅花短大

家本 修

目的 前報で作成された多面的感情状態測定尺度(肯定的感情:4次元、否定的感情:3次元)を用いて、4つの場面別に“派手”“どちらでもない”“地味”あるいは“フォーマル”“どちらでもない”“カジュアル”な服装をしたときの感情を測定し、服装の種類と場面によって生起する感情がどのように異なるかを検討した。

方法 各場面において「派手ー地味」「フォーマルーカジュアル」の次元で分類された10種の服装を提示し、それらの各服装をした場合に生じると想定される多面的感情を測定し、生起する感情に及ぼす場面、服装の影響を検討するために、7つの下位感情別に場面、服装を2要因とする分散分析を行なった。

結果 感情別に場面と服装を要因として2元配置分散分析した結果、肯定的感情では、爽快・快活感情は通学場面での地味な服装と、ディズニーランド場面でのカジュアルな服装に、優越感情は卒業記念パーティー場面での派手あるいはフォーマルな服装に、充実感情は会社訪問場面での地味あるいはフォーマルな服装に、安らぎ感情は、ディズニーランド場面での原点に位置付けられる服装と通学場面の地味な服装に得点が大きく、一方、否定的感情では羞恥感情が通学場面の派手あるいはカジュアルな服装に、圧迫・緊張感情は会社訪問場面での地味あるいはフォーマルな服装に得点が大きく、これらの場面、服装のとき、感情が比較的強く生起していることがわかる。また抑鬱・動揺感情はいずれの場面、服装においても強く生じることはなかった。以上の結果、生起するいずれの感情に対しても、場面、服装が影響しており、また両者の交互作用もあることがわかった。